事故報告（注意喚起）

九州地方整備局　港湾空港部
工事安全推進室

管内事務所の工事で発生しました事故について、事故発生の原因及び再発防止対策を取りまとめましたので情報提供致します。

Ⅰ．事故概要

発生日時　：　令和6年12月11日（水）　14時10分頃

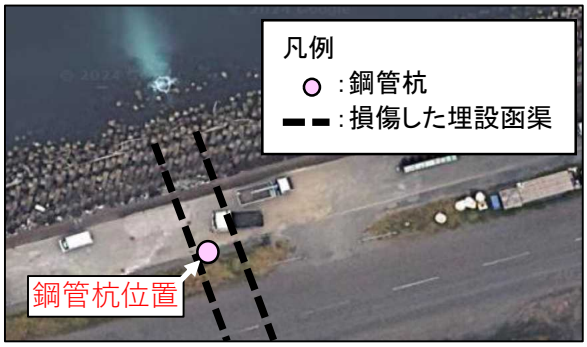
作業内容　：　鋼管杭の圧入

被災状況　：　埋設函渠の損傷

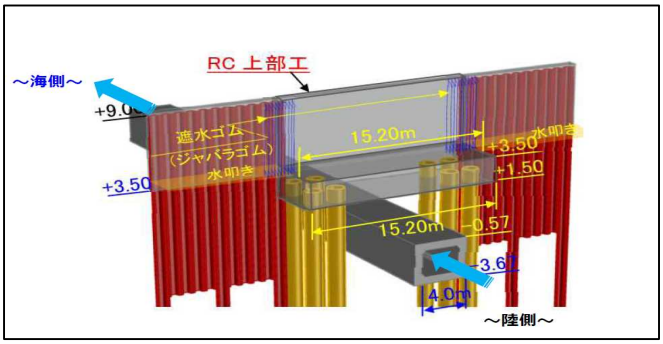
Ⅱ．事故発生状況

本工事の基礎工において、コンクリート壁体の基礎となる8本の鋼管杭を圧入する作業で、2本目の鋼管杭を圧入作業中に、現場周辺の海上面に汚濁が発生した。このため、工事を一時中止し、背後企業へ連絡し、汚濁発生の原因究明を開始した。

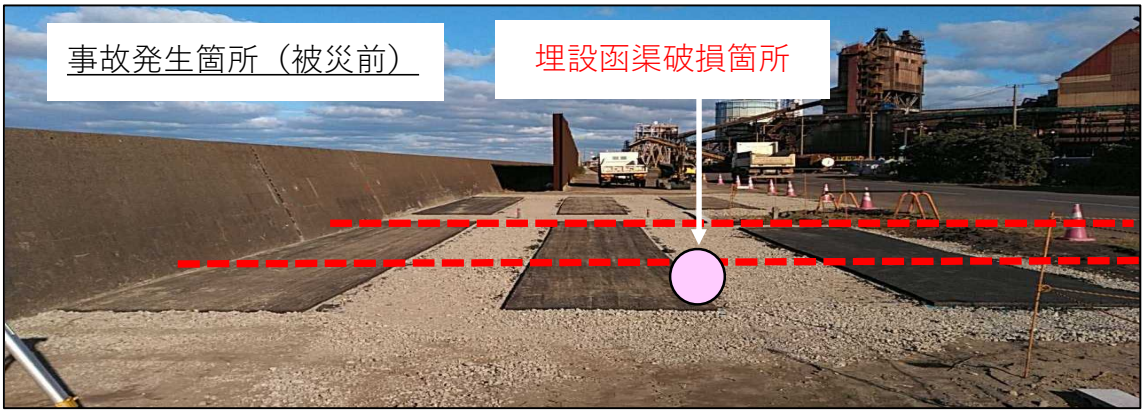
その後、埋設函渠の位置確認の試掘調査を行った結果、埋設函渠と鋼管杭が接触し、埋設函渠を損傷させている状況にあることが判明した。

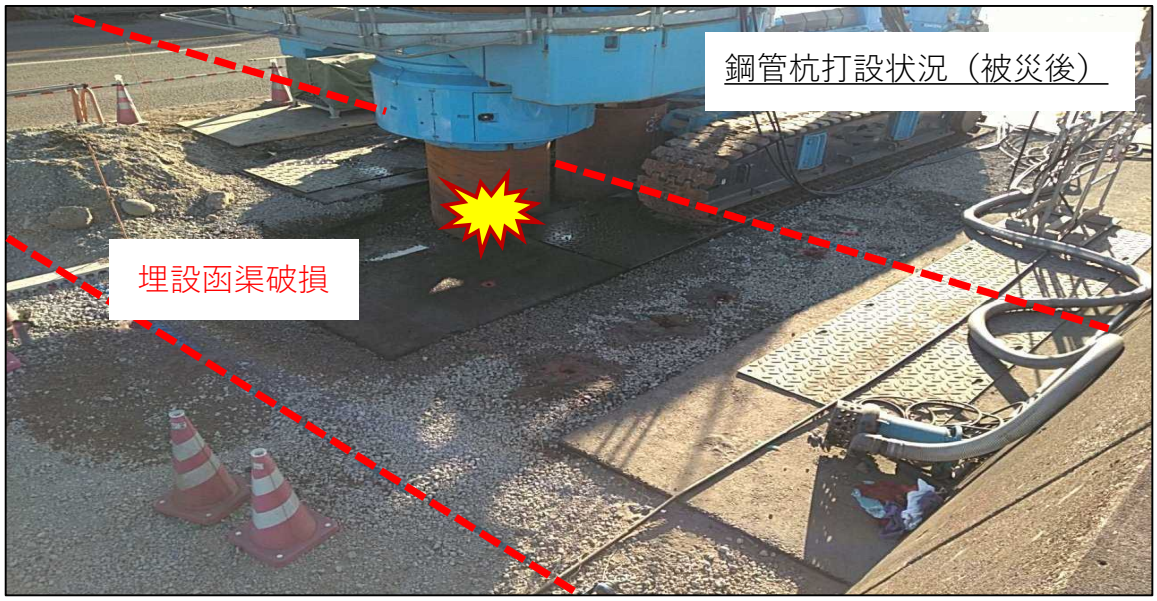


状況説明図（通常の放水状況）



基礎工イメージ図





Ⅲ. 事故発生の原因

1）過年度の埋設物調査の成果について
・埋設函渠の平面位置は、過年度に実施した埋設物調査において、簡易ボーリングを行い確認していたが、実際の埋設管位置とのズレがあった。
【過年度調査成果の不備】

2）施工前の事前調査等について
・受注者は施工開始前に設計図書の照査を行う必要があるが、埋設函渠の平面位置の事前調査を十分に実施することなく施工を開始した。
【事前調査不足】

・施工開始前に、設計図書の情報に現場不一致が無いか、埋設函渠所有者である背後企業担当者へ確認や照会を怠った。
【事前調整不足】

Ⅳ. 再発防止対策

1）・今後、同様に埋設物が近接する掘削施工や鋼材の地中建て込み施工については、位置出し測量後に試掘調査等を実施し、位置確認及び目的構造物との離隔を確認する。
【事前調査の徹底】

2）・施工開始前に、受注者、発注者、背後企業担当者の3者による現場確認を行い施工を開始する。
【事前調整の徹底】